文化学園大学造形学部

年間教育活動報告集 2019

BUNKA ZOUKEI

P1 卒業研究優秀作品

P13 特色ある教育プログラム

P23 学外連携活動報告

ご あ い さ つ

文化学園大学造形学部は、本学の建学の精神である「新しい美と文化の創造」の理念のもとに、生活に関わるデザインや住環境の観点から「造形」をとらえ、生活の質の向上に貢献できる人材を育成することを目的としています。本学部は、2学科から構成されており、デザイン·造形学科ではデザインや造形に関わる感性豊かな教育研究を、また、建築·インテリア学科では、建築やインテリアに関わる快適で豊かな住環境づくりへの教育研究を展開しています。本報告集は、造形学部のこれらの教育研究のうち、特に教育活動に焦点をあてて、一年間の主だった活動を取りまとめたものです。

本報告集では、卒業年次生全員が卒業研究として取り組んだ作品や論文を公表する場である『卒業研究展』、文化学園大学および造形学部ならではの『特色ある教育プログラム』、地域や産業界と連携することで実践的な教育と社会貢献を目指す『学外連携授業』について報告させていただきます。

多くの皆様に本報告集をご覧いただき、ご意見、ご感想をいただいて、本学部の新たな発展につなげてまいりたく存じます。

本学部の教育事業に日頃からご協力いただいております多くの方々に心から御礼申し上げますとともに、今後ともご指導、ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

造形学部長　渡邉 秀俊

デザイン・造形学科

本学科では、1、2 年次に基礎授業で造形力や表現力を磨きます。3 年次からは専門の 3 コースに別れて、グラフィックデザイン、生活用品や雑貨のデザイン、書籍の編集制作、映像やアニメーション制作、ジュエリー·金工·七宝のデザインと制作に取り組みます。また地域社会や産業界と連携した授業では、社会的なテーマに向き合い、クリエイティブな発想を発揮し、広く社会に向けた企画の提案を行ないます。4 年次の卒業研究では、学生各自が 1 年間に渡って作品制作に取り組み、発表します。本書では、これらの学修の成果をご紹介申し上げます。

建築・インテリア学科

本学科では、建築とインテリアにかかわる幅広い知識と技能を身につけ、今日の社会的な課題を自ら発見して、生活者の視点から論理的かつ創造的に提案できる人材の育成を目指しています。3 年次からは、建築デザインとインテリアデザインの 2 コースに分かれて実践的な設計課題に取り組みます。また、4 年次の卒業研究では、学生が自分の関心をもとに研究テーマを設定し、コースの枠を超えて指導教員を主体的に選択し、1 年間をかけて作品制作や論文執筆に挑みます。本書にて、学生たちの取り組みの成果の一端を紹介させていただきます。

C o n t e n t s

卒業研究優秀作品	**1**	**特色ある教育プログラム**	**13**	**学外連携活動報告**	**23**
メディア映像クリエイションコース	**2**	インターンシップ「キャリアデザイン（実践編）」	**14**	地域連携活動報告	**24**
グラフィック·プロダクトデザインコース	**4**	コースセミナー「キャリアデザイン（展開編）」	**16**	産学連携活動報告	**27**
ジュエリー·メタルデザインコース	**6**	コラボレーション科目	**18**	**学生の受賞**	**31**
インテリアデザインコース	**8**	成果発表·イベント	**20**		
建築デザインコース	**10**	専門教育科目	**21**		
制作過程と成果発表	**12**	海外留学·国際交流	**22**		

卒業研究優秀作品

卒業研究は 4 年間の学びの集大成として、4 年生全員が各自の研究テーマを設定し、1 年間かけて作品制作や論文執筆に取り組みます。これらの研究作品は 2 月上旬に開催される卒業研究展で展示公開されます。優秀作品は各コースから数点選出され、各コースの最も優れた作品 1 点に学長賞が授与されます。

E x c e l l e n t　A n t h o l o g y

DAISY

Stylebook、MusicVideo、オリジナルソング、レコード、インスタグラムの制作

若山 梨沙子

Stylebook : 114 ページ、ハードカバー　本文用紙 : アラベール、240 × 185mm
MusicVideo : 実写、3 分 41 秒
レコードジャケット : および盤面を録音・製作、12 インチ、奥行き 2mm

AWARDS 学長賞

解 説

DAISY という 4 人のガールズグループを創り出し、Stylebook、MusicVideo、オリジナルソング『わたしたちのうた』、レコード、インスタグラムの制作を行いました。全てを指揮するプロデューサーとして、プロモーションに効果的な展開を研究しました。デイジーの花言葉である、「平和」「希望」「無邪気」「美人」「ありのまま」からコンセプトを決め、" 若い世代に夢や希望、自信を与えられる作品 " というテーマのもと、制作を行いました。

プロセス

全プロジェクトの進行状況を把握しつつ、全体的に進めていきました。まずは、DAISY のオリジナルの曲の制作を行い、レコーディングをしました。そこから、MusicVideo 作りが始まりました。Stylebook と MusicVideo は、スチールとビデオ撮影を並行して行いました。撮影後はひたすら編集作業に入りました。Instagram を開設し、投稿も始めました。Stylebook の制作をメインに進め、その入稿が済むと、MusicVideo の最終完成に向けた編集作業を行いました。

講 評

自らが人選し結成したグループ「DAISY」のプロデューサーとして、そのプロモーション活動を 4 種類に亘るマルチメディア（複数の媒体）で展開し、それを一人で成し遂げた意欲作。これだけの多分野に亘る制作を、一つ一つ高いクオリティで完成させることができたその裏には、制作を支えた知人らの存在と協力もあった。しかし、何よりも彼女自身の制作に向けた強いこだわりと情熱、さらに DAISY に対する深い愛がそこにあったからに他ならない。

melty

小島 愛理

映像作品（動画データ）
2 分 35 秒
1080 × 1920 ピクセル

解 説

過去の記憶・今の記憶・夢のような記憶がとろけた世界観を作り上げ、人がそれぞれに持つ記憶の形や思い出をメインに、時代感・映画・音楽の要素を取り入れたアート映像作品です。自分の記憶で自己陶酔せず、誰かが、この作品のどこかの要素で、懐かしさ、優しさ、苦しさ、後悔、そして、許しを感じることのできる作品づくりをしました。どの時代にも存在する"記憶"や" 味 " の映像表現を追求し、音、音楽、台詞、視覚の全てにこだわった映像作品です。

nude

松井 麗

写真集 : くるみ製本（ハードカバー）
280 × 350mm
言葉集 : くるみ製本（ソフトカバー）
131 × 286mm
写真言葉集 : くるみ製本（ソフトカバー）
286 × 221mm

解 説

大学 4 年間で残してきた、フィルムカメラで撮影した写真と日々書き留めておいた言葉を作品にしました。日常に溢れる作られていない時間、もの、人間…ありのままの姿でいることをテーマとした作品です。見てくれる人にとって大切な時間、心地いいと感じるものを忘れないでいてほしいという願いを込め、写真集、言葉集、写真言葉集の 3 部作で構成。この作品を通して何かにグッときたり、誰かに会いたくなったり、少しでも心動かされたらいいなと思います。

ME＋er

オリジナルの架空アパレルブランドを立ち上げ、カタログ、ホームページ、ポスターなどを制作し、プロモーションする

木山 ひより

カタログ : 中綴じ製本（ソフトカバー）
257 × 190　mm
ポスター : 4 点 、610 × 457mm

解 説

カタログ、ホームページ、ポスターを制作し、自ら立ち上げた架空ブランド「ME＋er（メーター）」をプロモーションしました。編集者になることを目指し文化に入学したので、キャスティングや撮影、カタログ編集、ライティング…これまでに積んできた経験を活かせるような制作を選びました。コンセプトに合った雰囲気の統一やビジュアルセンスが求められるので自分の好みだけを詰め込むわけには行かず苦戦もしましたが、色々な方にも協力していただきやりがいがありました。

イラストを用いた、動物園ポスターの提案

荒井 真之介 B1 サイズ（1030×728mm）×８枚

AWARDS 学長賞

解 説

テーマは“発見する面白さ”。様々な動物のイラストをメインとして、だまし絵のような効果を狙っているシリーズポスターです。今回は事例として恩賜上野動物園のポスターをＢ1サイズで８種類制作しました。一見すると一種類の動物に見えますが、少し見方を変えることで別の動物が現れます。このポスターを観たことで動物に対しての疑問や探究心を促し、動物たちに会いに行くきっかけになるような表現を試みました。

プロセス

ポスターにおいて最も重要なことはまず観てもらうことだと考え、視覚的にインパクトのあるポスターにすることを軸に制作を始めました。登場する動物がそれらしくわかるよう実際の動物を観察することから始め、それぞれの特徴を的確に捉えることに配慮しながら進めていきました。イラストはわかりやすくそれぞれ2色でまとめ、同時にシリーズ全体を考慮し配色しました。また、「ハッケン!」というキャッチコピーを大きく組み込む際、イラストの妨げにならない配置とフォント選びを工夫しました。

講 評

生き物の有機的なシルエットにインスピレーションを得た作者は、制作当初は“図と地”が逆転するトリック画像を模索していた。途中、制作物を動物園のポスターに決めてからは一気にアイデアも拡がり、最終的には「ハッケン!」のキャッチコピーがデザインに一本の筋道を通した。長期にわたって向き合う卒業制作では、最初に決めたテーマをじっくり深化させる方法もあるが、手を動かしつつ醸成を待つ方法もある。作者は“手で考える”行為に徹することで、この作品を良質なビジュアルデザインに結実させた。

蓮の花をモーチフにしたウェディングアイテムのデザイン提案

HO LE ANH THU

解 説

ベトナムでは蓮の花はとても愛され、国花にもなっています。卒業制作を取り組むにあたり、こんなにも愛されている花をテーマにデザインに取り組みたいと考え、人生の大きな節目である結婚式のグラフィックイメージにこの花を取り入れ、ベトナム人に向けたウェディングペーパーアイテムの提案を行うことにしました。また、日本に留学する中で知ったベトナムにはない日本のペーパーアイテムも取り入れ、新しい提案を試みました。

春夏秋冬

3D アートの研究～シャドーボックスによるイラスト表現～

永井 みさき

解 説

人をワクワクさせるようなイラストを制作したいと思い、3D アートに着目し、制作意欲のあった移り変わる四季をテーマに「シャドーボックス」を制作しました。この作品のポイントは、遠くから見ると平面のイラストに見えますが、近くで見るとイラストに凹凸があり立体的な作品になっているところです。また、イラストは8層の重なりと繊細なカットで構成されており、凹凸で出来る自然な陰影で奥行きのある立体感も表現したかったポイントです。

ちまちまイラストレーション

侵食・繁殖・増殖

平田 優香

解 説

私は以前から頭の中をアウトプットしたいという思いでイラストを描いてきました。卒業研究に際しては、さらに表現の幅を広げる機会にしたいと思い、このようなイラストを描くことに決めました。散らかった部屋に何かしらの生き物がうごめき、いろんなモノの上を這っていくようなイメージを、細いペンで“ちまちま”と描き続けました。これを観る人が、細部がどうなっているのかつい近寄って見たくなったり、下描きのない一発描きの緊張感が伝わればと思っています。

DUAL SELF

七宝アートジュエリー

LAM YIN TING VICTORIA

彫金・七宝／銅・970 銀　227 × 300 × 40mm

AWARDS 学長賞

解 説

自分の考えを形にするアート性を意識して、彫金と七宝技法で取り外し可能なジュエリーとその背景となる七宝壁面を制作した。両方に共通するコンセプトは、人の二面性を動脈と静脈に置き換え、バランスを保つことで命が維持されていることの表現である。壁面の動脈と静脈のデザインには有線七宝と無線七宝を取り入れ奥行きを出した。ジュエリーのアイテムには脳、腎臓、心臓、肺を選択して、打ち出しと象嵌七宝を用いて左右を強調した。

プロセス

七宝壁面は技法を使い分けることで、動脈と静脈を有線七宝で強調し、細い血管を無線七宝でぼかして奥行き感を表現した。四角い形態の壁面をフラットに仕上げるため表裏に銅線と銀線をバランスよく配置して焼成し、研磨仕上げをする。また、ジュエリーを固定する金具を取り付ける部分の空きを予め作り、共に額装する。ジュエリーは打ち出しで成形後、象嵌七宝の凹みを作り七宝を施してから金具の裏板を固定する。

講 評

人の二面性というテーマを人体の臓器と血管によって表現したユニークな作品である。アイテムを壁面としても楽しめる有線七宝額とそこから取り外せるジュエリーというアイディアを考え、その構造にも工夫を凝らした。また七宝による表現を研究し奥行き感と象嵌の効果を出した。臓器をジュエリーという身に着ける形にするため抽象的にデザイン化し彫金と七宝を組み合わせることで、背面とも馴染むようにまとめた秀作である。

Whisper of the Blood Moon

Decorative dagger

BABAYAN TATEV

彫金／銀・鉄・合成ルビー
短剣：248 × 96 × 14mm
鞘　：170 × 46 × 1mm

解 説

短剣は謀殺するものとして「悪·醜」と例えられるが、一方で誰かの命を救うものとして「善·美」の面もある。表裏異なるデザインを施し、世界にある様々な物·人·現象と同じように悪と善の相反する面があることの象徴として飾り短剣を制作した。ルビーは Blood Moon と呼ばれる皆既月食を表し、サブタイトルの「Whisper of the Blood Moon」つまり「赤月のささやき」を聴かせ、鑑賞者に自分は「善」か「悪」かを決めなくてはならないことを説いている。

eye think

リング

佐藤 日和

有線七宝・精密鋳造／銀
52 × 50 × 15mm 他 11 点

解 説

指と指の間に挟んで着装するジュエリーであり自立させて飾ることができるオブジェとしての機能を持たせた。着装時は力強くまつ毛が立って凛とした瞳だが、外した時は宝石のチャームが現れ、涙が流れて溜まっている瞳を表現し弱い側面をイメージしている。瞳は「喜怒哀楽」という感情のイメージをデザインに取り込み、鮮やかな色彩が特色である有線七宝で制作した。たとえ闇にいても「いつか必ず光がある」という想いを込めて戦う女性の背中を押せるようなメッセージを込めた。

Dryad

バックル

森下 駿介

彫金／銅・真鍮・銀
60 × 80 × 20㎜　他 8 点

解 説

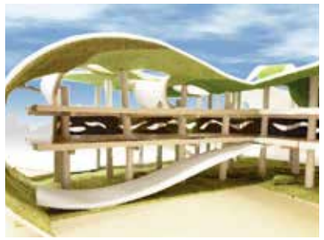
ギリシャ神話に登場する、樹の精霊「ドライアド」の美しさに魅了された男性が身に着けるバックルをイメージした。ドライアドは、奇妙でとても美しく、男性は美しさに惹かれるあまり樹に引き込まれてしまう。その奇妙な美しさと樹皮の凹凸のテクスチャーを重ね合わせてデザインし、特に樹皮が美しい「スギ，カツラ，シイ，ハゼ，クロマツ，サンショウ，カラスザンショウ，リュウキュウコクタン，パノキ」の全 9 種をモチーフに制作した。

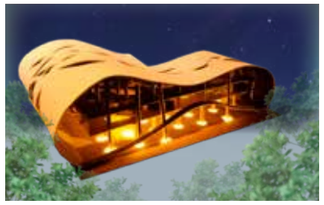
Greentopia

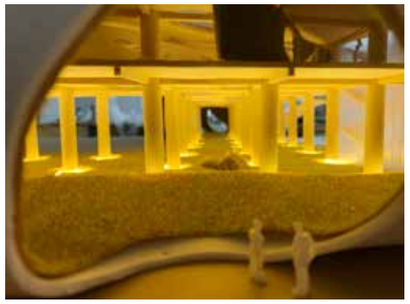
飯能銀座通りのグリーンを介したクリエイティブ活性化計画

高橋 有理沙 ［制作］

AWARDS 学長賞







解 説

今は寂れてしまった商店街の一角に、地元飯能の農産物をアピールするデジタル農業体験型のアミューズメント空間を企画。インテリアには、エシカル消費を意識したスーパーやデジタル農業カフェなども配した。柔らかい弧を描く屋根は、特産のお餅から発想して、木屑を混入した最新工法の新材料で覆っている。小商いスペースを、ピロティ部分に配し賑わいを演出。ビジターが周辺のお店を訪れるきっかけにもなる事を期待している。

プロセス

休日に飯能市の駅前商店街を歩いてみると、利用者は激減し衰退した様相を呈していて胸が痛んだ。調査をすると他の全国の商店街もかなり苦戦している様だ。しかし数は少ないが、成功事例には地元ならではの特色を生かした取組みがあることが分かり、飯能にも数多くの魅力的な特産品や、特徴的な産業があることにも気づいた。市と商工会の「商店街活性化会議」に、参加する機会を得、手考足想でこの研究計画を立てた。

講 評

彼女は商店主や市と実際にディスカッションを重ね、商店街のかつての賑わいを取り戻すモノコトを模索してきた。先ずは、このデザイン思考的プロセスを大いに評価したい。また地元の食、歴史から発想を得た、たおやかなグリーンを意識した柔らかな造形も未来的かつ懐かしい記憶を刺激するデザインで、必ずや地元の人々の共感を得るであろう。近々地元の協力を得て、コトを商店街で仕掛けると言う。真に頼もしい女神が現れたものだ。

ミエル ミエナイ

富山県の魅力を発信するアートミュージアム

岡﨑 恵 ［制作］

解 説

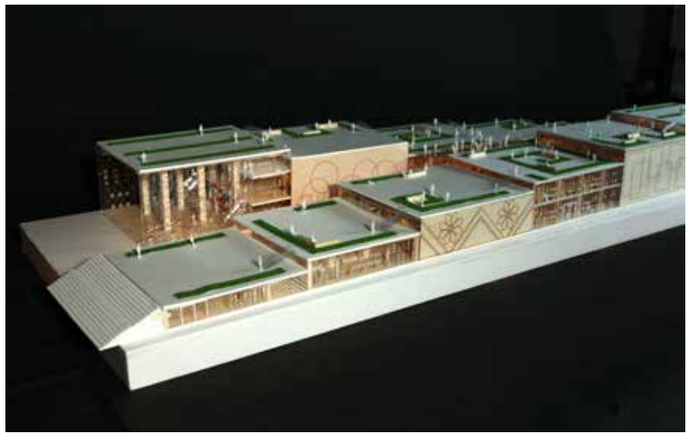
離れてみてわかる地元の財産。彼方に見える蜃気楼、夜空の光柱、発光するホタルイカ。季節、天気、気温、その時その一瞬で姿が変わり、ないのにある様に見える幻想的な現象である。そんな瞬間を体感しに来てもらう場の計画。敷地は背後に立山連峰、前方には富山湾があり、建物は地引網で引き上げられるイメージとした。構成は海中体感の地下、方向の違いで見え方が変わる地上のモニュメント、レストラン棟である。発見を楽しみ再訪したい場となる。

Up and Connect

教育 / 伝統的なデザインを含む、
ベトナムの商業施設の提案

NGUYEN THI THU HIEN

［制作］



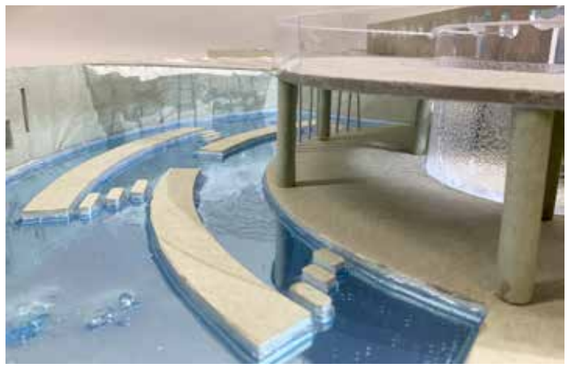
解 説

ベトナムのサパにある美しい段々畑と民族衣装のインスピレーションからデザインを発想。建築のフォルムに段々畑を、カーテンウォールのデザインやインテリアにパターン化した柄を用いた。誘致する店舗も物販だけではなく、無学、貧困率の高さを鑑み、子供の将来の為に無料の教育、技能習得の為のスペースも積極的に展開。既存の欧米型施設には見られないベトナムならではの特色を持たせ、未来の明るい社会への一助となる事を期待。

ココロノ呼吸

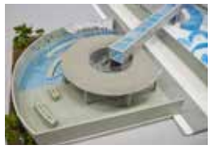
三鷹の生産緑地を変える野菜コミュニティづくり

伊藤 紗織 ［制作］



解 説

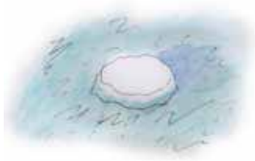
近所の八百屋閉店をきっかけに都会での暮らしを見つめ直した。無くなりつつある“自然と人、人と人の関わり”に注目し、窮屈な都会でも大きく深呼吸できるみずみずしい場を提案する。５つの生産緑地に野菜づくりに必要な「土・水・光・風」を体感しながら野菜と人々を繋ぐエリアを作り、それらを巡る中でコミュニティを育てる。他の生産緑地は農地として貸し出し、ここは中核施設として機能させたい。丸みを帯びた形状を基調とし暖かな関係性を表現した。

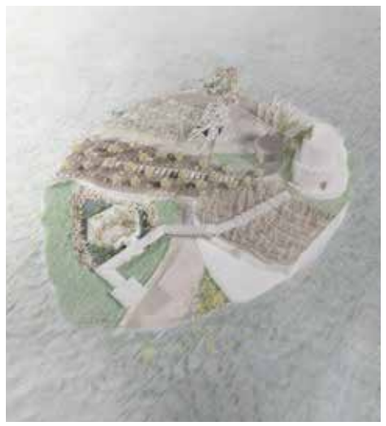


思惟の遺跡

松田 理沙　［制作］

AWARDS 学長賞





解 説

24 の哲学思想をフロイトの夢の理論を用いて空間化した。これら一連の空間を「夢想空間」と名付け、24 の哲学思想の相互の位置付けを考慮し、湖の上に浮かぶ哲学の島をつくり出した。島はなだらかな傾斜になっていて、その傾斜を流れる川は、哲学の歴史の流れを表現している。夢に出てくる世界のように、現実的を装いながらどこかが崩壊した非日常な世界観を表現した。この哲学の島は、私の心の中に存在し続ける哲学のかたちなのである。

プロセス

西洋哲学史の本を読む機会があった。本の中の哲学者たちは、様々な視点から世界について考えていた。その思想は難解だったが、理解したときにはこの世界の本当の広さを教えてくれた。そして、ふと私の心の中に哲学者たちの思惟のかたちが浮かび上がってきていることに気がついた。そこで、私はこの研究で、その思惟のかたちを心の中から取り出し、表現することにした。形のない思惟に形を与え、人類が積み上げてきた思惟の遺跡を設計した。

講 評

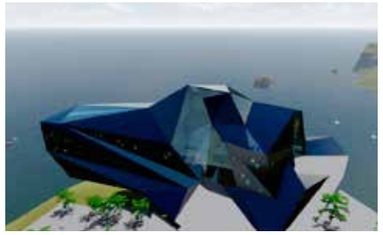
この作品は、哲学という抽象的概念を、空間という具象的形態に変換する試みである。この変換は意識的にやろうとすると、説明的な図式化にとどまりがちになる難しさがある。しかし、作者は、この変換をフロイトが唱えた「無意識」を使って軽やかに展開した。もし、作者が夢の中の風景として空間に変換した哲学者達の思惟が、この空間を体験する他者にも淡く伝わったとしたら、そこには社会が生まれることを予感させる作品である。

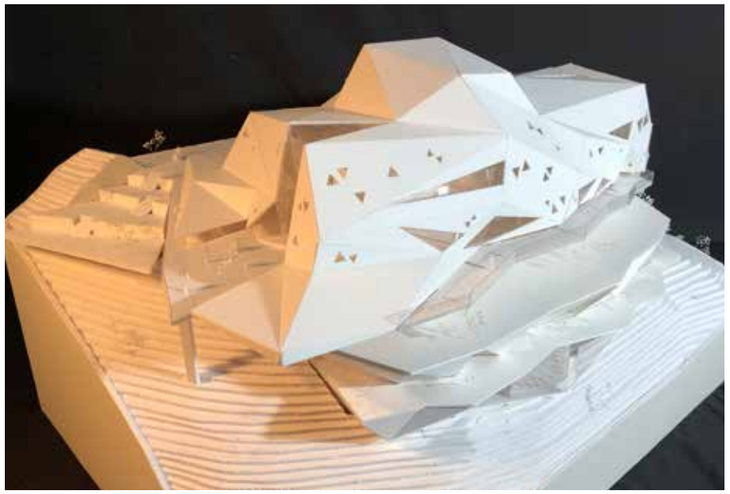
オブシディアン マウンテンリゾート

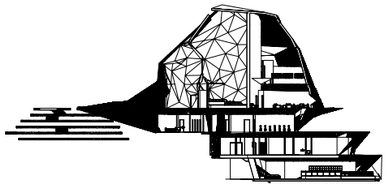
自然と共存する山地ホテル　**CUI YANSONG**　［制作］

解 説

島根県隠岐の島西ノ島町の國賀海岸にある都市でストレスを抱えた人々を自然に誘い、普段体験できない風景と活動を提供する総合機能のホテルの設計である。パワーストーンと呼ばれる黒曜石の形、色と意義をイメージし、地形と自然に配慮したデザインをした。ホテルの基本的な機能以外に、建物内部にはジオパークである現地の特殊な地形をイメージしてつくられたロッククライミング施設がある。絶景の中でいろいろなスポーツをやりながら、元気を取り戻すマウンテンリゾートである。







暮らしがにじむまち

富永 なつみ　［制作］

配置図

A 棟平面図

解 説

人々の交流が少なくなった現代に、自然と人間同士の交流を促す。食べる、寝るなど、住宅の中で行われてきた生活の行為を各住戸から取り出し、まちの中に再分配する。そうしてまち全体を使って暮らすことによって、近隣住民や地域の人々との交流を生み出す。共用部と住戸の境界には、透過性の高い小さなスペース「拍」を設ける。公と私、内と外を緩やかに繋ぐことにより、住戸内だけでなく、自然と共用部で交流するきっかけとなる。

造形学部 卒業研究 制作過程と成果発表

2019 年度の卒業研究展は 2020 年 2 月 9 日（日）から 11 日（火）までの 3 日間、本学20階で開催され、多数の来場者にお越しいただきました。研究作品が完成し展示できるまでの道のりはなかなか険しかったようですが、試練を乗り越えた学生たちの表情は晴れやかでプレゼンテーションする姿も自信に満ちていました。

会場点景・制作点景

学長賞プレゼンテーション

会場でのプレゼンテーション

会場設営

作品展示の準備

作品の制作過程

特色ある教育プログラム

文化学園大学では特色ある教育プログラムとして、学科や学年をこえて開講する集中授業「コラボレーション科目」やグローバルな視野を広げ異文化への理解を深める留学プログラム等を設けています。また学びの目的や目標を学生生活の中から考え、希望の将来像を具現化していくための「キャリア形成教育科目」を設け、企業での就業体験「インターンシップ」や、キャンパスを出て様々なモノ造りの現場や地域の文化に触れる「コースセミナー」を授業として実施しています。造形学部で今年度実施したこれらの授業に加え、学外への成果発表や専門教育科目での幅広い学びを報告します。

Distinctive Educational Program

- インターンシップ「キャリアデザイン（実践編）」…… P14
- コースセミナー「キャリアデザイン（展開編）」…… P16
- コラボレーション科目 …… P18
- 成果発表・イベント …… P20
- 専門教育科目 …… P21
- 海外留学・国際交流 …… P22

特色ある教育プログラム｜インターンシップ「キャリアデザイン（実践編）」

C a r e e r　d e s i g n (P r a c t i c u m)

研修先は卒業生が就職している企業が中心。それでも最初は不安が大きいようですが、学内での面談や充実した事前教育を経て徐々に気持ちが整います。各自の研修目標も事前教育のグループディスカッションでしっかりと立てられるようになり、研修の実施、研修後の振り返りシートや報告書作成を通じて、就職活動本番への準備が万全になっていきます。

● 研修先一覧

アイパックス イケタニ㈱、㈱アサオ工芸、ギャラリー絵夢、㈲クラークケント、㈱シーズ製品計画、㈱スタジオサカミ、㈱ディレクションズ、㈱道明、松下尚文制作事務所、㈱アーキヴィジョン広谷スタジオ、㈱池下設計、㈱意匠計画、 ㈱AMD、㈲設計事務所ゴンドラ、大成建設㈱、東京ガスコミュニケーションズ㈱、㈱プライム建築都市研究所、㈱ブラックス、ミサワリフォーム㈱、山岡嘉彌デザイン事務所、㈱ラウンドテーブル ほか

● 科目

キャリアデザイン実践編（インターンシップ）
学部３年　科目履修者

● 期間と時期

８～９月（夏季休暇中）に２週間

● インターンシップの主な流れ

５月	オリエンテーション、研修先発表と希望者受付	８月上旬～９月中旬	研修実施
６月中旬	選考（レポート提出および面接）		研修終了後　研修報告書提出
６月下旬	研修企業決定	９月下旬	事後教育（振り返りシート作成）
７月	事前教育（企業研究、目標設定、ビジネスマナー講座	10月	公開報告会

製品サンプルの組み立てとパッケージデザインの制作

紙製パッケージの専門会社であるアイパックスイケタニ株式会社で2週間研修させて頂きました。実際の製品サンプルの組み立てや新しいパッケージデザインを制作し、社員の皆様の前でプレゼンテーションも行いました。専門の方々からのご意見を頂けて、とても貴重で良い経験となりました。

⊙インターンシップ先
アイパックスイケタニ株式会社
⊙取り組んだ学生
グラフィック・プロダクトデザインコース3年

企業の方とデザイン打ち合わせ

デザインモデルを使ってのプレゼンテーション

学生のデザイン提案モデル

学生のデザイン提案モデル

社員の方からご意見を頂きました

３年生になると将来の専門を意識した学びが始まります。学生は「なりたい職業を体験してみたい」「実際に働いている人の話を聞きたい」という希望が膨らんでくる時期です。本学ではインターンシップでより多くのことを学び吸収できるよう、期間を２週間（10日間）と長く設定し、単位認定科目にしています。

建設会社、住宅メーカー、設計デザイン事務所などで専門を生かした研修

⊙インターンシップ先
株式会社 AMD、大成建設株式会社
東京ガスコミュニケーションズ株式会社
株式会社プライム建築都市研究所、山岡嘉彌デザイン事務所

⊙取り組んだ学生
インテリアデザインコース３年
建築デザインコース３年

●実際の建築現場へ同行

工事中の現場見学で、コンクリートを打つ前の配筋の状態を詳しく見たのは初めての経験。他にも足場に登って現場全体を上から見る貴重な体験もしました。リフォーム会社で研修した学生は、施主様との打ち合わせに同行させていただきました。

●店舗併用住宅、集合住宅の模型制作

設計事務所の研修では、担当してくださった方が関わっている設計のサポートとして模型作成もします。構造部分の段差を考えて作るのは授業とは違う難しさがあります。複数の研修生と一緒の時もあり、それぞれ図面を役割分担し、全体で合わせながら作り上げました。

●パソコンを使った図面作成や材料ボードの作成

オープン予定のホテルや店舗のインテリア提案の体験行なった研修生も。初めて使うパソコンソフトで作図も教えていただきました。普段気にしていなかった天井のデザインを調べたり、サンプルを取り寄せる体験などで知識を深めることもできたようです。

●企画・運営の計画作成やミーティングに参加

企業やショールームの企画・運営部署での研修では、資料の整理整頓や棚卸作業、電話の対応といった業務に携わります。リフォーム会社の市場調査を行った研修生はイベント資料の作成をし、社員の方へのプレゼンテーションも行うなどコミュニケーション力も身につけました。

宝石や貴金属パーツの生産管理体験

⊙インターンシップ先
アサオ工芸

⊙取り組んだ学生
デザイン・造形学科
ジュエリー・メタル
デザインコース3年

ジュエリー・メタルデザインコースの課題制作で使用する貴金属パーツや天然石の購入でお世話になっている企業で、お客様に提案するスローガン「買うから作る」の理念を実体験を通して学びました。

雑誌編集の現場を体験

⊙インターンシップ先
松下尚文制作事務所

⊙取り組んだ学生
メディア映像クリエイションコース　３年

各出版社のファッション雑誌などの編集を手がける松下尚文制作事務所でインターンシップを行いました。雑誌撮影の現場に同行して撮影作業に立ち会ったり、インタビュー記事の誌面を制作するなど、実際の編集作業を通して貴重な体験ができました。

雑誌の撮影現場で事前の打ち合わせ

既存雑誌のレイアウトを参考に、自分で誌面を制作

特色ある教育プログラム | コースセミナー「キャリアデザイン（展開編）」

C a r e e r　d e s i g n (A d v a n c e d)

本学の実践的キャリア形成教育の展開編として位置づけられるこの授業では、1年次の「キャリアデザイン（導入編）」を踏まえ、これまでに学んできた専門性を生かした社会人としての将来像をより具体的に描くことができるようになること、目的をもって専門教育を習得し社会に巣立つ意識を持つことを目標としています。

［実施期間 2019・11月14日→11月15日］

シルクスクリーン印刷と写真撮影実習

メディア映像クリエイションコース コースセミナー

2日間の日帰りセミナー、1日目は品川（新馬場）にある「SURUTOCO（スルトコ）」にて、布アイテムへのシルクスクリーン印刷を体験。2日目は高尾山口の「599ミュージアム」を観賞後、山頂まで登山、下山後は「トリックアートミュージアム」にて作品鑑賞と写真撮影を行いました。

⊙担当教員
メディア・映像研究室　岡部隆信、荒井知恵
⊙取り組んだ学生
メディア映像クリエイションコース３年

オリジナルグッズが完成！

製版してもらった各自のデザイン画をプリント

高尾山にて撮影実習

トリックアートを楽しみながら撮影技術を磨きました

現代の「文明開化の音」を探す

⊙担当教員
金工研究室　春田幸彦、藤澤英恵
⊙取り組んだ学生
ジュエリー・メタルデザインコース3年

ジュエリー・メタルデザインコース コースセミナー

６月に事前学習として江戸東京博物館企画展示を鑑賞し、理解を深めてからコースセミナーに臨みました。１日目：東京国立近代美術館工芸館→深川江戸資料館→タバコと塩の博物館。２日目：刀剣博物館→江戸東京博物館。現代における文明開化の音を各自探すことができました。

過去と未来を感じる２日間

チームラボにて、光に覆われ不思議な感覚に

チームラボにて、五感を楽しむアトラクションに皆興味津々な様子

鉛の活字を組んで印刷体験！

⊙担当教員
グラフィック・プロダクト研究室　山田拓矢、山崎裕子
⊙取り組んだ学生
デザイン・造形学科 グラフィック・プロダクトデザインコース３年

グラフィック・プロダクトデザインコース コースセミナー

普段は実習室やPCの前にこもりがちな学生たちと学外へ！ チームラボプラネッツや日本科学未来館で日本の新しいアート・デザインに触れ、また印刷博物館では印刷の歴史を学ぶと共に活版印刷体験を楽しみました。

専門分野のトレンドを捉えコミュニケーション力を磨く

⊙担当教員
インテリアデザイン研究室　高橋正樹、曽根里子
岩嵜いづみ（非常勤講師）
⊙取り組んだ学生
インテリアデザインコース３年

ソーシャライジングホテルTRUNKのインテリア見学

岩嵜講師によるコミュニケーション・表現力セミナー

インテリアデザインコース コースセミナー

インテリアのトレンドを把握し知識を深めるため「ソーシャライジングホテル TRUNK」「JAPANTEX2019」「TOKYO リノベーションミュージアム」を見学、また社会に出る上で必要なコミュニケーション・表現力を身につけるセミナーを学内で実施しました。

「実空間の体験を通じて建築を考える」

⊙担当教員
建築デザイン研究室　久木章江、谷口久美子
⊙取り組んだ学生
建築デザインコース3年

建築デザインコース コースセミナー

実際の建築空間を体験することでスケール感を養い設計デザイン力向上を目指すこと、卒業後の人生設計や残りの学生生活の過ごし方について考えることを目的とした１泊２日のプログラムです。集合住宅歴史館ではメモを取りながら説明を聞き、大学セミナーハウスではグループディスカッションに取り組みました。翌日はルーテル学院大学と三鷹天命反転住宅を見学し、様々な名建築の空間を堪能した２日間になりました。

大学セミナーハウス 吉阪隆正設計の本館は大地に打ち込まれた楔のイメージ（大学セミナーハウス）

集合住宅歴史館　既に取り壊されてしまった集合住宅の模型を前に説明に聞き入る

集合住宅歴史館　日本初のダイニングキッチンを体験

村野藤吾デザインの階段（ルーテル学院大学図書館）

天命反転住宅（荒川修作＋マドリンギンズ）は室内も色鮮やかで多種な空間体験ができる

特色ある教育プログラム | コラボレーション科目

Collaboration Subjects 2019

「学科・学年をこえた学生同士」、「専門の異なる教員同士」、「大学と産業界、大学と地域、大学と国内外の大学」などのコラボレーションを意図して開講される科目です。通常授業では不可能な実践的な授業、あるいは集中授業にすることにより効果的に教育できる授業を９月中旬と2月中旬に集中的に行います。

感じて、学んで！ふるさとプロデュース

学んで発信！ふるさとプロデュース 2019

飯山市は日本の原風景の残る自然と文化が息づいた地域です。今年は「自然体験」をキーワードとし、サップ体験、草木染め、ナイトハイク、森林ヨガなどの体験を通して、飯山市をPRできる企画や商品の開発にチャレンジしました。

⊙担当教員
田中直人（和装文化研究所）
栗山丈弘（国際文化・観光Ａ研究室）
山崎裕子（グラフィック・プロダクト研究室）
森谷直樹（教育学・体育学研究室）
⊙取り組んだ学生
建築・インテリア学科、デザイン・造形学科

「粘着剤で生活をより豊かに楽しくするもの」企画提案ワークショップ

⊙担当教員　グラフィック・プロダクト研究室
星野茂樹、白井信、山田拓矢、山崎裕子

⊙取り組んだ学生
グラフィック・プロダクトデザインコース３年

デザインコンペ形式で企業に提案

「セロテープ」でお馴染み、ニチバン(株)のテープ開発部とのコラボ授業、今年度のテーマは、「文具とキッチン周りを対象とした、粘着剤で生活をより豊かに楽しくするもの」、3年生４チームそれぞれが、デザイン企画提案プレゼンテーションを行いました。

環境×リサイクル銀から生み出すジュエリー 2019

⊙担当教員
金工研究室　押山元子、春田幸彦、成井美穂、藤澤英恵

⊙取り組んだ学生
造形学部、服装学部、現代文化部

作って考えようサスティナブル

リサイクル銀からアートクレイシルバーを開発した相田化学工業株式会社とのコラボレーション授業。若い感性から生み出されるフレッシュなジュエリーデザインの提案を目指して取り組みました。第９回は令和元年を意識した「つなぐ」をテーマにイマジネーションを広げ作品を制作しました。

ネイチャーハンティング in 信州

大自然に学べ

都会のキャンパスを離れ、八ヶ岳山麓の長野県原村での夏のコラボレーション授業。大自然と触れ合い、その美しさを写真におさめ、村の魅力を伝えるポスターをデザインします。制作したポスターは実際に地域発信のために活用されています。

⊙担当教員
白井信（グラフィック・プロダクト研究室）
渡邉裕子（建築デザイン研究室）
北方晴子（服装史学研究室）
⊙取り組んだ学生
デザイン・造形学科９名、国際文化・観光学科４名
ファッション社会学科１名

特色ある教育プログラム | 成果発表・イベント

Presentation / Events

学外のイベントへの参加やワークショップ開催を通して、日ごろの学びの成果を学外に発信し、互いの成長を確認します。

麻布十番商店街でワークショップを開催

夏休み子どもワークショップ

（株）東横イン元麻布ギャラリーと連携して、学生たちが小学生対象の地域密着型「夏休み子供ワークショップ」を開催しました。ワークショップは、多くの子供たちで大盛況。子供たちの制作したモビールは、麻布十番商店街の協力8店舗に2週間展示されました。

⊙担当教員
嘉松聡（絵画研究室）
鳥海薫（造形・色彩学研究室）
七里真代（造形・色彩学研究室）
近藤静香（ニット作家）

⊙取り組んだ学生
デザイン・造形学科
2、3年有志

「ICAF」で学生作品を上映

⊙担当教員
メディア・映像研究室　昼間行雄、荒井知恵
海上梓（非常勤講師）、佐野眞隆（非常勤講師）
細川梨奈（非常勤講師）

⊙取り組んだ学生
メディア映像クリエイションコース3、4年
映像クリエイションコース卒業生
デザイン・造形学科2年

学生アニメーションの祭典への参加

六本木の国立新美術館講堂にて9月26日～29日開催のICAF（インターカレッジ・アニメーションフェスティバル）に、学生の卒業研究作品や課題で制作したアニメーション作品を選抜して出品しました。上映会は六本木のほか大阪、金沢、姫路などの会場も巡回。

特色ある教育プログラム | 専門教育科目

Major Courses

学部・学科で共通して受講できる専門教育科目では、デザインの幅広い分野に視野を広げ、多様な表現方法と基礎力を養います。

フェルト作家によるワークショップ

⊙担当教員
染織研究室　佐藤百合子、岡本泰子、森田和子

⊙取り組んだ学生
デザイン・造形学科3年（選択科目）

「テキスタイルワークBⅠ」

織物や染色の基本的な技法を学び、テキスタイル創作におけるさまざまな表現方法を習得する授業です。その中に外部講師によるワークショップを取り入れています。フェルト作家のジョリー・ジョンソン講師を招き、羊毛フェルトの文化や歴史、特徴についての講義を交えながら、実際に原毛を縮絨させて立体的なフェルト作品を制作します。

実演しながらのプロセス解説

各自の色合いで花を作ります

ジョリー先生作品

完成作品

テクスチャー研究（グループ課題）

⊙担当教員
造形・色彩学研究室　七里真代、梅田祐子（非常勤講師）

⊙取り組んだ学生
建築・インテリア学科1年（必修科目）

「基礎造形A」

造形表現に共通するかたち・色・素材の基本的な特性を知り、考え、かたちにする力をつけていく基礎造形の授業。これはケント紙を使って空間の演出を試みる課題です。様々な表現技法の試行から効果的に見せる手段までをグループで話し合いながら行います。

上記作品を使用したイメージ（CG）

陶タイル制作とそれを使用したモザイクアート

⊙担当教員
絵画研究室　安高信一、嘉松聡、北岡竜行
基礎造形研究室　澤田志功、加茂幸子

⊙取り組んだ学生
デザイン・造形学科2年（選択科目）

「アートワークA」

絵画、彫刻双方の見地から陶タイルによる作品制作をする授業です。各自がデザインした図案をもとに陶タイルを用いてモザイク画やレリーフ制作を行い、新たな素材に触れ創意工夫をすると共に釉薬の使用方法、特性についても学びます。

特色ある教育プログラム | 海外留学・国際交流

I n t e r n a t i o n a l e x c h a n g e

海外提携校への留学や海外から訪れる短期研修生との交流を通して異文化への理解を深め国際感覚を養います。

ようこそ！日本へ、文化学園大学へ

オーストラリアからの短期研修生、日本の染色技法やファッションを学ぶ

本学では毎年、多くの海外教育機関から短期研修生を受け入れています。日本の染色を学びたいという希望が多く、染織研究室では昨年 10 月 1 日来校したオーストラリア TAFE の学生たちに型染と絞染を指導しました。幅広い年齢層の受講生たちは意欲的で、魔法のように短時間で2点の作品を仕上げました。

⊙担当教員　染織研究室　佐藤百合子
（アシスト：岡本泰子、角谷彩子、森田和子）
学生アシスト：栗田満里奈（グラフィック・プロダクトデザインコース 4 年）
大月明日香（メディア映像クリエイションコース 4 年）
⊙取り組んだ学生
TAFE（Technical and Further Education） Queensland Brisbane Students （オーストラリア）

2 つの技法を組み合わせた作品

型染、絞染完成

絞染酸化発色

アーツ・ユニバーシティ・ボーンマス留学プログラム

⊙担当教員　浅沼由紀
⊙取り組んだ学生　建築デザインコース 3 年

アーツ・ユニバーシティ・ボーンマス（AUB）はイギリスのアート専門大学で、ファッション、アート、デザイン、インテリアなどの専門コースがあります。本学では AUB 特別留学プログラムがあり、条件を満たせば休学することなく留学でき単位互換も可能です。2018 年度後期には建築・インテリア学科 2 年生（現・建築デザインコース 3 年生）が AUB に留学しました。現場でのリサーチやグループディスカッション、プレゼンテーションを重視する授業内容に加え、現地の名建築の空間を実際に体験し、大きな収穫を得たようです。

インテリア空間の照明デザインとシミュレーション

学外連携活動報告

地域社会とのつながりや産業界との共同活動など、学外との連携も大学の重要な社会的役割です。地域社会に息づく文化や産業を活性化する作業を通じ、大学で学んでいる知識を実践する活動は学生の社会的視野を拡大してくれます。また、産業界とのコラボレーションは、実社会で必要とされる多岐にわたる社会的配慮や、コミュニケーションの重要性を肌で学ぶ絶好の機会です。今年度実施したさまざまな学外連携活動を以下に報告します。

E x t e r n a l C o o p e r a t i o n

● **地域連携活動報告　Regional Alliances**
01　長野県須坂市における古民家再生プロジェクト　［建築デザイン研究室・渡邉（裕）ほか］
02　東京の木 " 多摩産材 " を知る・触れる・広げるプロジェクト　［インテリアデザイン研究室・丸茂ほか］
03　新宿区　中井・落合活性化プロジェクト「染の小道」　［染織研究室・佐藤ほか］

● **産学連携活動報告　Academia-Industry Cooperation**
04　カフェの窓を彩る「デコブラインド」を制作（株式会社ニチベイとの産学連携企画）［インテリアデザイン研究室・曽根ほか］
05　学生ネクタイコラボレーション展（東京ネクタイ協同組合との連携授業）［染織研究室・佐藤ほか］

01 長野県須坂市における古民家再生プロジェクト

■ 渡邉裕子（建築デザイン研究室）、佐藤百合子（染織研究室）、高橋正樹（インテリアデザイン研究室）
牧野昇（メディア・映像研究室）、北岡竜行（絵画研究室）
井上播子（アトリエノット）、伊藤丙雄（東京工科大）、本郷信二（東京工科大）

Café &ワークショップを終え心地よい疲れの後の一枚

学生が制作した Café の
イス・リネン・食器

加茂先生の指導のもと食器の
釉薬掛けに挑戦

階段の踏み板を取り付ける作業

1. はじめに

須坂市仁礼に建つ古民家を拠点に、古民家所有者、須坂市及び地元企業、近隣住民の協力の元、未来の暮らしを探る目標を掲げた地域連携プロジェクトを続けて 10 年目になる。今年度も８月上旬に恒例の合宿を行った。参加者は、文化学園大学の学生９名・教員５名の他に、卒業生や東京工科大学を含めると総勢 26 名が参加した。内容としては、例年実施している古民家改修・ワークショップと地域交流に加え、新しい試みとして café「古民家 Z Café」を開催した。

2. 主な活動内容

① **Café**　古民家を気軽に体験できるCaféをワークショップと同時開催し、コーヒーとお茶菓子を提供した。学生は合宿前の事前作業として食器・リネン類・家具等のデザインや制作を行なった。当日は、少数ではあるが今まで接点のなかった地域住民（特に若い世代）が新たに古民家を訪れてくれた。

② **ワークショップ**　本学非常勤講師の遊佐一弥先生による、手製本ポケット付きノートの制作ワークショップを開催した。表紙と本文用紙をリンクステッチでかがり、表紙の裏面に半透明のポケットを付けたもので、最後に表紙はステンシルで装飾して完成させた。高校生を含む幅広い年齢層の男女 17 名が参加し、サポートの学生達や地域住民同士の会話を楽しみながら熱心に制作していた。

③ **古民家改修（階段設置）**　１階でワークショップと Café を同時開催するにあたり、２階（脚立での昇降のため使用していなかった）を倉庫として活用できるように階段を設置した。地元協力業者の指導の元、材料を切り出し、現場にササラ桁を設置した後、踏み板を取付ける作業を行った。

ワークショップで手製本を制作する参加者

3. おわりに

今後も産学官民が連携して、共に行える活動、場所づくりを思考して行きたい。更に、学生が企画などに積極的に参加できるような仕組みづくりを検討したいと考える。

最後に、古民家所有者、須坂市役所をはじめとする地域住民の多くの方々、文化学園大学の加茂先生、遊佐先生のご協力に心から感謝申し上げます。

02 東京の木“多摩産材”を知る・触れる・広げるプロジェクト

「インテリアデザイン演習Ⅲ」における家具・インテリア小物のデザインと制作

■ インテリアデザイン研究室　丸茂みゆき、菊池光義（非常勤講師）
参加学生：建築・インテリア学科４年「インテリアデザイン演習Ⅲ」科目履修者 28 名

丁寧に磨いて仕上げた木材は表情豊かな作品に
身近に感じてもらい興味を持ってもらいたい

木材産地で生の木に触れ
現地の人から話を聞いた

初めて使う道具にも慣れて
徐々に組み立てていく

連携先の方へ作品プレゼン

1. 概要

この企画は、東京都あきる野市「秋川木材協同組合」との地域連携 10 年目、そして住宅メーカー「株式会社ヤマヒサ（以下ヤマヒサ）」との産学連携としても６年目の取り組みです。建築・インテリア業界の状況は連携当初と比べると「地産池消、循環型生活」の気運が上がり、国産材への注目が高まってきました。東京の木材も“多摩産材”の名称でブランド化し利用促進が進められています。公共建築物に活用された事例も増えつつあり、今後業界に進む学生には情報を正確に理解する良い機会になっています。

2. 今年度の取り組みと成果

① **取組テーマ**：クライアント（ヤマヒサ）からの要望『国産材に興味を持つきっかけとなる家具・インテリア小物』を設定。各自のコンセプトをたてます。

② **５月の見学会**：木材競りの場「多摩木材センター」、木材カットなどの加工「中嶋材木店」、多摩産材を活用した温浴施設を見学。現地の方から国産材の現状について説明を受けました。

③ **授業の進行と作品の特徴**：進行は「スケッチ→模型作成→ＣＡＤ図面作成→見積もり→制作」、到達目標は「クライアントからの要望を深く探ることができる」「制作は二人で組み問題解決を図れる力をつける」。以上のことから不得意な部分を補い合い、計画を立てて進める大事さを実感してもらいます。制作物は最優秀１組、優秀２組をヤマヒサに決定してもらい、「組み合わせて形が変わる照明」「親子で遊びながら多摩を知れる道具」などが選ばれ、それらを中心に作品展を 10 月に開催しました。

製作途中の確認は大事
分割できるパーツで組み立てる照明は細部の作りに気をつけて

3. 事業の評価と今後の展望等

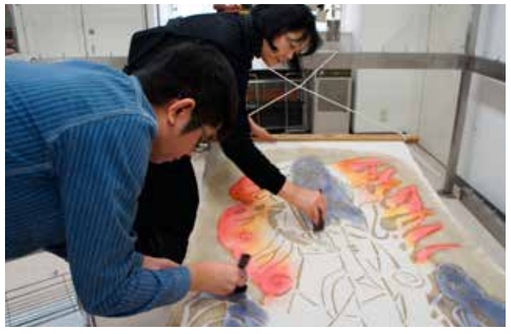
「クライアントを意識＋木材の特徴を出す」をクリアするのは難しいハードルだったようです。自分の好きなように制作できないことから当初「興味が薄かった」という学生もいました。しかし終了時には「大変良い経験だった」と変わり、連携ならではの実社会へ向けた体験になったようです。今後はさらに成果を学生に還元できる企画を設定できればと考えています。

03 新宿区　中井・落合活性化プロジェクト「染の小道」

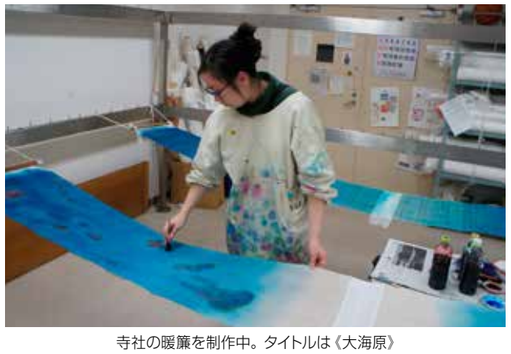
小さな街を「染」でうめつくす三日間

■染織研究室　佐藤百合子、岡本泰子、角谷彩子、森田和子
参加学生：テキスタイルワークコース４年（2018 年度）９名
「テキスタイルワーク B Ⅱ」科目履修者

街の中央、妙正寺川で行われる「川のギャラリー」
色とりどりの反物が風に揺れ、期間中一番の撮影スポットに



和風雑貨店の暖簾を制作中。もち糊で防染した布に
絵を描くように刷毛で染めた



寺社の暖簾を制作中。タイトルは《大海原》
海をイメージした鮮やかなブルーのデザイン

1. 事業概要

江戸時代より染色産業の中心地だった新宿中井・落合地域には、現在も染色関連の業者が点在している。そんな歴史と文化にあふれる街を活性化させるプロジェクト。多くの商店などに染色暖簾をかけ、川に反物を架けるなど街中を染物で埋め尽くすイベントを行う。「染の小道」はそんな街の特殊性を活かし、染をキーワードに街の活性化を図る目的で９年前から本格的にスタートした。本学染織研究室ではテキスタイルワークコースを中心に発足当初より様々な形で積極的に取り組むことで、学生が地域の中での役割を考える機会を作ってきた。

ワークショップでは、テキスタイルワークコース４年生と保育園児が一緒に
エコバッグを染め、楽しい時間を過ごした

2. 2018 年度の取り組み

2018 年度は 2019 年 2 月 22 日から 24 日に開催された。アジアンダイニング＆バー、和風雑貨店、寺社の３件の暖簾を制作。暖簾を制作した寺社ではコース学生が卒業研究学外展、ワークショップを開催した。学外展では染色作品以外に織物作品もあり、技法の違いなどを学生が来場者に説明した。ワークショップではエコバッグにステンシル体験を行い、様々な年代の方がご参加くださった。近隣の保育園からは卒園記念にと 20 名の園児が体験。完成したバッグを見た園児は笑顔になり、学生も社会貢献の重要さを学んだ。また暖簾制作では、現地での取材を元にデザインを考え染色、縫製までの全ての工程を学生が行った。イベント期間中は屋外に架けるため風通しの良い素材など布選びからこだわり、型染の暖簾を制作した。

3. 昨年度の反省と今後の展望

テキスタイルワークコース学生だけでなく、コース外の学生、特に実習科目「テキスタイルワーク B Ⅱ」を履修した３年生も積極的に参加した。暖簾制作では科目課題とは違い、責任を持って制作することの重要性を学んでいた。また、ワークショップでは染色の楽しさを他者へ伝える難しさや楽しさを実感する貴重な機会となった。今後はテキスタイルワーク系科目を履修した学生などがより参加しやすいよう、暖簾制作を授業に取り入れるなどしていきたい。

和風雑貨店の暖簾《祈り》
地元で親しまれる円空仏『中井出世不動尊像』をモデルに型染で制作した

アジアンダイニング＆バーの暖簾《ナマステ》
ネパールを題材とし、店の外観とマッチするようカラフルに仕上げた

テキスタイルワークコース卒業研究学外展の様子。型染、シルクスクリーンプリント、ハンドメイドフェルト、裂織など様々な染織技法の作品が並んだ。３日間の期間中、約 300 人が来場し、活気溢れる展示となった

（※実施期間が２月のため、前年度の報告とした）

04 カフェの窓を彩る「デコブラインド」を制作

株式会社ニチベイとの産学連携企画

■ インテリアデザイン研究室　曽根里子、丸茂みゆき、基礎造形研究室　松村由樹子
取り組んだ学生：プロジェクトゼミナール科目履修者
デザイン・造形学科 1、2年　建築・インテリア学科 1、2、4年

学生作品「ダイヤログ」

1.「デコブラインド」の産学連携企画とは

ブラインドの老舗メーカーである株式会社ニチベイ（以下、ニチベイ）との産学連携で、カフェの窓に設置する「デコブラインド」を学生が共同制作する取り組みです。「デコブラインド」とはニチベイが提案する手法で、マスキングテープやカッティングシートなどを用いてブラインドをデコレーションし、窓まわり空間を魅力的に演出するものです。カフェの空間を対象にした連携企画としては、2017年度から継続して３回目となりました。

2. 参加学生と対象カフェ空間

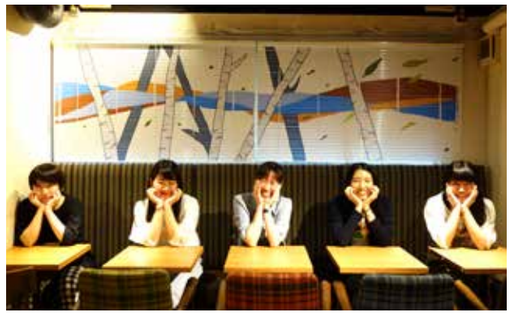
2019年度は、「プロジェクトゼミナール」の授業として、５月～９月にかけて実施しました。参加した学生は、デザイン・造形学科の１、２年生４名、建築・インテリア学科の１、2、４年生12名の計16名でした。
対象のカフェ空間は、大学学生会館の建物内にある「BUN café」（È PRONTO 文化学園店）の Room1、Room3 の２室です。なおデコレーションするブラインドの本体は、ニチベイからの提供により特注したものです。

3. デザインと制作の流れ

デザインと制作作業は、以下のような流れで行いました。

① 基礎講義と要件の確認

最初に、ブラインドの機能や過去のデコブラインド作品等について、ニチベイ関係の方から講義を受け、基礎知識を学びました。また、カフェオーナー側からの要望として、飲食・公共空間にふさわしいデザインが求められることをふまえ、カフェの現地に行って、空間の特徴や雰囲気を確認しました。



学生作品「Around the Woods」

コンペティションでデザイン原案を選出

② デザイン案のコンペティション

基本要件をふまえた上で、各学生がデザイン案をスケッチで表現し、実際に制作するための原案を選出するコンペティションを行いました。ニチベイ関係の方、カフェオーナー側である学園施設部の担当者、授業の担当教員が審査員となり、学生が各自の案をプレゼンテーションしました。審査の結果、デザイン原案として２名の案が選出されました。

③ デザイン案のブラッシュアップと制作方法の検討

デザイン案が採用された学生を中心に、Room1 と Room3 を担当する２グループに分かれ、デザインの詳細や、使用する素材の種類と色、具体的な制作手順の検討を行いました。またブラインド本体のスラット（羽）の色を決定して発注しました。

④ デコレーション制作

デザイン決定後、各グループでデコレーション作業に入りました。素材は、カッティングシートとラインテープを使用し、まずデザインに合わせてパーツを切り出します。その後、作業場所に仮設置したブラインド本体にパーツを貼り込んでいき、細部の仕上げをしてデコレーションを完成させました。

⑤ 完成発表と講評会

完成作品は「BUN café」の Room1・Room3 に設置し、完成発表と講評会を行いました。代表の学生がデザインコンセプトや制作手順、工夫した点などをスライドで発表し、ニチベイ関係の方などから講評していただきました。

実物大でのデザイン検討作業

デコレーション素材の切り出し

仮設置したブラインドに素材を貼り込む

完成発表と講評会

4. 作品のコンセプト

今回学生が制作した２つのデコブラインドは、以下のようなコンセプトでデザインしています。

Room1：「Around the Woods」

カフェの木製の家具や漂うコーヒーの香りから、白樺の森と空気の流れをモチーフにしてデザインしました。

Room3：「ダイヤログ」

上から見たカフェのテーブルをモチーフに、会話が広がり流れていく様子をイメージして配置し、お客さんの色々な会話を丸や線の模様で表現しました。

5. 取り組みの成果

完成した作品は「BUN café」で引き続き使用されており、講評会の様子はインテリア業界誌「インテリアビジネスニュース」にも掲載されました。

参加した学生は、学科を超えて共同制作する体験と、実物制作の難しさ・面白さを実感するとともに、企業や社会との関わりを通じた客観的な観点や、目的に沿ったアイディアを形にする提案・計画の重要さを学ぶことができました。

05 第12回文化学園 学生ネクタイコラボレーション展

ネクタイに秘められた新たな可能性を求めて

■ 染織研究室　佐藤百合子、岡本泰子、角谷彩子、森田和子
■ 連携企業：東京ネクタイ協同組合、成和株式会社
■ 対象学生：「デザイン画部門」デザイン・造形学科１年
ソフトマテリアル履修学生（課題として）、
「デコタイ部門」造形学部全学生

デコタイ部門優秀賞

表彰式

造形学部長賞

1. 事業概要

東京 ネクタイ協同組合と文化学園大学との連携によるネクタイ振興や若い感性の発掘を目的としたプロジェクト（平成 20 年より継続中）。生地に各々の技法で染色を施し、ネクタイに仕立てる「染タイ部門」、ネクタイのペーパーデザインを競う「デザイン画部門」、ネクタイ生地や既に縫製されているネクタイをリメイクしたり装飾したりする「デコタイ部門」（素材提供：成和株式会社）の３部門で審査が行われ賞が与えられる。毎年全作品を文化祭時に展示し、東京ネクタイ協同組合主催の表彰式も行っている。今年度はコース再編に伴い「染タイ部門」を除く２部門での開催となった。応募作品は東京ネクタイ協同組合が審査し、各部門別に賞を決定。特に優れた作品には全部門を代表して最優秀賞が授与される。大学からの賞として第 10 回記念展より「デコタイ部門」に造形学部長賞を、第 12 回展より「デザイン画部門」に染織研究室賞を新たに設置した。

2. 2019 年度の取り組み

今年度のテーマは「デザイン画部門：①応援（Cheering）、②未来（Future）」「デコタイ部門：①ゴージャス（Gorgeous）、②五感（The senses）」。

受賞作品ほかすべての応募作品は 2019 年 11 月３日～５日の文化祭開催期間中、A 館１階廊下・掲示ケース（デザイン画部門）、A013 教室（デコタイ部門）に展示。11/5（金）には東京ネクタイ協同組合、株式会社成和、新聞社各社来校のもと A013 教室にて表彰式が行われ、その様子は株式会社成和 HP、繊維ニュース、信用情報などに掲載された。

3. 今年度の反省と今後の展望

例年「デザイン画部門」ではインターネットからの画像を資料とする学生がいるため、制作においては知的財産権に留意し、実社会でのデザイン活動につなげていける様に指導した。「デコタイ部門」については「テキスタイルワークＢⅠ」を履修した３年生のほか「デザイン画部門」に取り組んだ１年生からも応募があり、型にはまらず奔放で造形的な作品が審査員の間で好評であった。研究室では今年度より服装学部の実習授業も行っており、より多彩な作品に期待して学部外学生の参加も考えていきたい。

学生ネクタイコラボレーション 受賞者

デコタイ部門（応募数：22 点）

優秀賞	三浦 暁里（グラフィック・プロダクトデザインコース３年）
佳作	LEE KAI RUNG（ジュエリー・メタルデザインコース３年）
佳作	青木 宏実（グラフィック・プロダクトデザインコース３年）
佳作	石田 紗也佳（デザイン・造形学科１年Ｂクラス）
佳作	濱田 紗希（グラフィック・プロダクトデザインコース３年）
造形学部長賞	川﨑 一夏（デザイン・造形学科１年Ａクラス）
造形学部長賞	小泉 ななみ（デザイン・造形学科１年Ｂクラス）

デザイン画部門（応募数：131点）

優秀賞	中垣 杏優（デザイン・造形学科１年Ｂクラス）
佳作	引地 千鶴（デザイン・造形学科１年Ａクラス）
佳作	高橋 未来（デザイン・造形学科１年Ｂクラス）
佳作	SHE JIAYING（デザイン・造形学科１年Ａクラス）
染織研究室賞	クイケン ステラ（デザイン・造形学科１年Ａクラス）

第 15 回 ジュエリーデザイン画コンテスト

セレナ賞 BABAYAN TATEV（ジュエリー・メタルデザインコース４年）

受賞作

日本唯一の宝飾問屋街〔ジュエリータウンおかちまち〕が主催する展覧会。今年のテーマは「sign（サイン）」でコースの専門科目「ジュエリーデザイン表現演習Ⅱ」の中で取り組んだ作品を応募しました。１次審査は、一般投票（web 投票／会場投票）で行われ、最終審査で各入賞作品が選出されました。

JJA ジュエリーデザインアワード 2019

入選 鈴木 紗弥（ジュエリー・メタルワークコース 2018 年度卒業生）
新門 海波（ジュエリー・メタルワークコース 2018 年度卒業生）

鈴木作品

新門作品

一般社団法人日本ジュエリー協会が主催する「JJA ジュエリーデザインアワード 2019」において、造形学部デザイン・造形学科ジュエリー・メタルワークコースの卒業生が入選しました。JJA ジュエリーデザインアワードは、日本のジュエリー業界における最も権威あるコンペティションとして、毎年開催されている公募展です。

第 48 回 伝統工芸日本金工展

入選 鈴木 紗弥（ジュエリー・メタルワークコース 2018 年度卒業生）
渡部 志穂（ジュエリー・メタルワークコース 2018 年度卒業生）
高橋 信友（ジュエリー・メタルワークコース 2018 年度卒業生）
平賀 結実子（ジュエリー・メタルワークコース 2018 年度卒業生）

渡部作品

高橋作品

SUWA アンカットダイヤモンド ジュエリーデザインコンテスト 2019

プレス奨励賞 山崎 華（ジュエリー・メタルデザインコース３年）

山崎作品

第 53 回 手工芸作品展

入選 水口 雅月（ジュエリー・メタルデザインコース４年）
金谷 雄將（大学院生活環境学研究科生活造形学専攻１年）

水口作品「imagine」

金谷作品「和食」

「當下未來影展 - 澳門×台灣×日本」(Present Future Filmfestival)

課題作品の場面を集めた『アニメーション作品集　混沌の螺旋』が、マカオにあるデザイン専門学校 iCentre 主催の映画祭「當下未來影展 - 澳門×台灣×日本」(Present Future Filmfestival) 招待作品として選出され、iCentre 内のシアターで上映された。

入選　複数入選 46 名

（映像クリエイションコース（現：メディア映像クリエイションコース）2017 年～2019 年卒業生 46 名）

作画：北村 有彩（2018 年卒業生）

「當下未來影展」ポスター

第 30 回 OKINAWA41「かりゆしウェア」テキスタイルデザインコンテスト

沖縄の魅力発信を目的に内閣府が開設したサイト「OKINAWA41」において、「かりゆしウェア」の普及振興のため開催されたコンテスト。本学からは３点の作品が入選。2019 年３月 22 日には宮腰光寛 前内閣府特命担当大臣をはじめ審査委員も参加し、表彰式が行われた。

入選　海老澤 星河（グラフィック・プロダクトデザインコース４年）
栗田 満里奈（グラフィック・プロダクトデザインコース４年）
水口 雅月（ジュエリー・メタルデザインコース４年）

海老澤作品

栗田作品

水口作品

宮腰大臣と

2019 原村「美しい村」フォト&ポスターコンテスト

ポスター部門
最優秀賞
ソウ イチメイ（デザイン・造形学科２年）

ソウ イチメイ作品

第 19 回 住宅課題賞

主催：一般社団法人 東京建築士会

入選　纐纈 麻人（デザイン・造形学科２年）

纐纈作品

The 4th NIF・YOUNG TEXTILE 2019

会場：The 38th JAPANTEX2019
（東京ビッグサイト）11月13日(水)～15日(金)

高円宮妃殿下ご観覧の様子

入選
森國 由莉
（テキスタイルワークコース 2018 年度卒業生）

日本のインテリアファブリックス産業の振興と若いクリエイターの育成、応援をする目的で NIF（一般社団法人日本インテリアファブリックス協会）が主催する、「NIF・YOUNG TEXTILE 2019」が開催された。テキスタイルデザイン教育を行う全国の大学、大学院の教育機関において制作された中から 24 点が選出され、本学からは卒業生森國由莉さんのフェルト造形作品が会場を飾った。

建築文化週間 学生グランプリ 2019「銀茶会の茶席」

審査員賞 受賞
松田 理沙、岡﨑 菜々子、小山 夏子、鈴木 舞、髙野 莉子、前口 久瑠実
（建築デザインコース４年）

建築デザインコース４年生のグループが「建築デザイン演習Ⅲ」の授業で日本建築学会主催の学生コンペに挑戦し「四海波庵」が審査員賞を受賞しました。「銀茶会の茶席」は年に一度全銀座会が開催するお茶会で実際に使用される創作茶席の設計コンペです。今年のテーマは「綾」。多種多様な文化が交差することによってできる大きな綾がこの茶席で調和されることを「四海波模様」をモチーフとして美しく表現しているところが評価されました。

『四海波庵』

第 74 回　新匠工芸会展

入選
森田 和子（テキスタイルワークコース 2011 年度卒業生）

YKK ファスニングアワード

ファッショングッズ部門　入選
ニン シブン（グラフィック・プロダクトデザインコース４年）

「YKK ファスニングアワード」は、YKK 株式会社ファスナー・バックル・スナップ&ボタンなどの " ファスニング商品 " に焦点を当てた学生対象のユニークなファッションコンテストです。そのファッショングッズ部門 に応募しました。デザインモデルの完成度を上げる事に大変苦労しましたし、入賞こそ適いませんでしたが 1,446 点の応募の中から上位 10 点に入選する事ができファイナル審査のファッションショーに参加しました。

『Ren siwen』

2020年 子年 年賀状デザインコンテスト

主催：ネットスクウェア株式会社

最優秀作品　石川 ひより（グラフィック・プロダクトデザインコース４年）
優秀作品　石川 ひより（グラフィック・プロダクトデザインコース４年）
白澤 遥香（メディア映像クリエイションコース３年）
佳作　竹下 佑奈（グラフィック・プロダクトデザインコース３年）
山口 明（メディア映像クリエイションコース３年）
青木 宏美（グラフィック・プロダクトデザインコース３年）
入選　14 名［19 作品］

石川作品

BUNKA ZOUKEI

編集後記

造形学部の教育活動を「造形学部教育活動報告集」という形でまとめるようになって早くも８年の時が過ぎました。年度末にこの報告集を編集することも恒例となりましたが、今年は全体構成を見直し、本学のキャリアデザイン科目やコラボレーション科目といった「特色ある教育プログラム」をまとめて掲載することにいたしました。

こうしてまとめてみると本学部の教育活動の特徴や広がりを再認することができ、日頃の教育活動を省みる良い機会になりました。冊子制作にご協力いただいた皆様、特に編集デザインをご担当いただいた廣田様には大変お世話になりました。この場をお借りし心から感謝申し上げます。

造形学部年間教育活動報告集編集委員
谷口久美子

文化学園大学　造形学部年間教育活動報告集 2019

● 造形学部専任教員
浅沼由紀　安高信一　荒井知恵　岩塚一恵
大関徹　岡部隆信　岡本泰子　押山元子
角谷彩子　嘉松聡　加茂幸子　北浦肇
北岡竜行　小林なな子　佐藤百合子　澤田志功
七里真代　柴田眞美　白井信　曽根里子
高橋正樹　谷口久美子　種田元晴　鳥海薫
成井美穂　春田幸彦　久木章江　昼間行雄
深田雅子　藤澤英恵　星野茂樹　牧野昇
松村由樹子　丸茂みゆき　森田和子　山﨑裕子
山田拓矢　横山稔　渡邉秀俊　渡邉裕子

● 造形学部年間教育活動報告集編集委員
谷口久美子　岡本泰子
安高信一

● 写真提供
林敦彦　三守敬次　鈴木義明
アイキ元　YKK（株）

● デザイン　hirotaS ／ 廣田武志

● 発行：2020 年 3 月 11 日
● 発行者：文化学園大学造形学部
渡邉秀俊

〒 151-8523 東京都渋谷区代々木 3-22-1
TEL. 03-3299-2310 FAX. 03-3370-6202
http://bwu.bunka.ac.jp

※本誌に掲載されている作品・写真等の無断利用、複製を禁じます。

文化学園大学
造形学部　デザイン・造形学科　建築・インテリア学科

〒151-8523　東京都渋谷区代々木3-22-1
TEL. 03-3299-2302（造形学部長室）
http://bwu.bunka.ac.jp/index.php